

平成24年度酪農教育ファーム活動 事業報告（案）

平成25年3月27日
社団法人 中央酪農会議
酪農教育ファーム推進委員会

I 酪農教育ファーム活動の現状

1. 酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター数の推移について

(1) 酪農教育ファーム認証牧場

24年度当初の酪農教育ファーム認証牧場（以下「認証牧場」という）は309牧場であったが、うち25牧場が廃業（牧場閉鎖）や労働力不足、防疫への不安等によって減少し、新たに17牧場が認証を取得したため、24年度末には全国で301牧場となる見込みである。

表1:酪農教育ファーム認証牧場の推移

地域	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H24	
														うち新規	うち取消
北海道	27	30	43	45	49	51	50	53	50	51	53	48	51	5	2
東北	17	17	20	20	20	20	34	44	38	42	43	43	39	5	9
関東	25	29	37	38	40	43	43	45	49	60	65	68	72	5	1
北陸	4	6	6	6	7	7	7	7	14	16	17	17	14	0	3
東海	12	15	17	17	19	29	29	42	47	49	49	49	46	0	3
近畿	4	7	10	10	10	10	11	12	12	13	15	14	14	0	0
中国	7	9	10	11	12	12	14	15	14	17	18	19	17	0	2
四国	2	2	2	2	2	3	4	6	7	7	8	8	9	1	0
九州	17	19	21	22	21	22	23	23	23	33	38	40	36	1	5
沖縄	1	1	1	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	0	0
合計	116	135	167	174	183	200	217	249	257	291	309	309	301	17	25

(2) 酪農教育ファームファシリテーター

24年度当初の酪農教育ファームファシリテーター（以下「ファシリテーター」という）は556名であったが、うち60名が退職や認証期限満了等によって減少し、新たに61名が認証を取得したため、24年度末には全国で557名となる見込みである。

表2：酪農教育ファームファシリテーターの推移

地域	H20	H21	H22	H23	H24	H24	
						うち新規	うち取消
北海道	70	86	96	82	80	10	12
東北	60	67	75	71	81	13	3
関東	84	119	134	135	138	19	16
北陸	38	39	40	43	38	2	7
東海	69	75	90	82	80	3	5
近畿	16	25	32	34	34	5	5
中国	19	24	31	28	23	2	7
四国	12	12	18	19	21	2	0
九州	35	56	63	58	58	4	4
沖縄	4	4	4	4	4	1	1
合計	407	507	583	556	557	61	60

※表1、表2ともに年度末の数値。24年度については見込み。

2. 酪農教育ファーム活動の参加者と団体の数

(1) 認証牧場での受入

24年度上期は受入46,221件、652,258人でそれぞれ前年比257%、125%と大きく増加している。これは過去の調査のうち、2番目に大きい値である（過去最高は21年度上期の662,629人）。22年度上期に口蹄疫により大きく落ち込んだ牧場での体験受け入れは、観光型の牧場を中心に以前の勢いを取り戻しつつある。また、ほとんどの区分において、23年度・22年度を上回る実績を示しているが、特に「外国人のグループ」の実績が大きく増加している。これは、北海道の観光型の牧場が大半を占めている。東日本大震災の発生後、一定期間は外国人の来訪者が著しく減ったという報告が多くみられたが、観光地の牧場を中心に海外からの訪問者が増加傾向にあるのではないかと推察される。さらに、個人・グループの受入についても、21年度水準までは満たないものの、回復傾向がみられる。

一方で、24年度上半期に受入（酪農体験）が全くなかったと報告があった牧場が45牧場あり、その理由のほとんどが「家畜伝染病の脅威から」というものであった。23年度同時期は54牧場の実績がゼロであったので、これまで自粛していた牧場が24年度に体験受入を再開した傾向はみられるが、再開した牧場からも「口蹄疫が不安」という声は多く聞かれる。

【区分別】

年度	24年度						23年度		22年度		
	区分	件数(件)	23年度対比	22年度対比	体験者数(人)	23年度対比	22年度対比	件数(件)	体験者数(人)	件数(件)	体験者数(人)
上期	幼稚園・保育園	805	180.9%	435.1%	49,340	133.0%	444.1%	445	37,102	185	11,109
	小学校	1,304	109.6%	195.2%	73,967	96.1%	171.5%	1,190	76,952	668	43,121
	中学校	859	120.5%	233.4%	52,078	99.8%	227.9%	713	52,165	368	22,847
	高等学校	486	192.1%	368.2%	15,038	148.2%	145.6%	253	10,149	132	10,327
	大学・専門学校	305	124.5%	269.9%	7,913	145.8%	223.8%	245	5,427	113	3,535
	特別支援学校	236	154.2%	233.7%	6,699	160.2%	252.8%	153	4,181	101	2,650
	子ども会などの団体	1,431	157.1%	394.2%	48,000	156.3%	375.1%	911	30,701	363	12,797
	学校などの団体	5,426	138.8%	281.1%	253,035	116.8%	237.8%	3,910	216,677	1,930	106,386
	個人・グループ	40,287	288.3%	210.1%	388,393	127.5%	513.0%	13,972	304,667	19,171	75,707
	外国人のグループ	508	493.2%	-	10,830	784.2%	-	103	1,381		
	その他	0	-	0.0%	0	-	0.0%	0	0	58	8,480
全体合計	46,221	257.0%	218.4%	652,258	124.8%	342.3%	17,985	522,725	21,159	190,573	
通期	幼稚園・保育園							997	57,672	599	31,225
	小学校							1,908	122,026	1,385	87,882
	中学校							973	60,711	519	27,425
	高等学校							400	15,772	207	13,430
	大学・専門学校							364	7,239	229	5,427
	特別支援学校							238	6,499	194	4,620
	子ども会などの団体							1,324	42,007	663	21,327
	学校などの団体							6,204	311,926	3,796	191,336
	個人・グループ							20,146	429,320	45,964	210,776
	外国人のグループ							157	2,638		
	その他							0	0	70	9,731
全体合計							26,507	743,884	49,830	411,843	

注1：上記は報告があった数字。24年度と23年度の調査回収率は約90%。22年度については回収率約95%。

注2：区分において「外国人のグループ」を調査したのは23年度から。

(2) 出前授業の実施

24年度上期は出前授業を実施したファシリテーターが43名、実施件数は134回となり、特に学校などの団体において、全体的に減少傾向にある。これは、23年度までに出前授業による体験を牧場での体験に切り替えたことや、これまで多く出前授業を実施していたファシリテーターが24年度に認証を辞退したこと等が理由として考えられる。

また、23年度と比較すると、24年度上期は子ども会などの団体とイベント会場での出前授業の体験者が多かった。

【区分別】

年度	24年度 【実施者43名】						23年度 【実施者60名】		22年度 【実施者37名】		
	区分	件数(件)	23年度対比	22年度対比	体験者数(人)	23年度対比	22年度対比	件数(件)	体験者数(人)	件数(件)	体験者数(人)
上期	幼稚園・保育園	23	79.3%	71.9%	1,302	64.6%	86.5%	29	2,016	32	1,505
	小学校	44	36.1%	30.1%	3,465	36.8%	39.9%	122	9,413	146	8,689
	中学校	16	40.0%	13.4%	780	28.6%	10.6%	40	2,730	119	7,390
	高等学校	2	22.2%	25.0%	64	9.1%	9.5%	9	704	8	674
	大学・専門学校	3	17.6%	27.3%	378	62.7%	116.7%	17	603	11	324
	特別支援学校	2	50.0%	25.0%	18	34.6%	15.1%	4	52	8	119
	その他の学校	16	44.4%	44.4%	350	10.4%	27.3%	36	3,378	36	1,283
	子ども会などの団体	6	100.0%	40.0%	1,140	254.5%	40.2%	6	448	15	2,838
	学校などの団体	112	42.6%	29.9%	7,497	38.8%	32.8%	263	19,344	375	22,822
	イベント会場	22	51.2%	3.7%	42,747	232.3%	595.3%	43	18,404	589	7,181
	全体合計	134	43.8%	13.9%	50,244	133.1%	167.5%	306	37,748	964	30,003

注1：上記は報告があった数字。

II 事業の実施状況

酪農教育ファーム活動の量的拡大・面的普及、質的向上に向けて円滑な推進を図るため、24年度においては、事業計画に基づいて以下のとおり事業を実施した。

特に、ファシリテーターの研修内容の一層の充実や酪農関係者と教育関係者のネットワークの拡大、酪農教育ファームの持つ教育的な効果の持続性や今後の酪農経営における可能性の検証などを行った。さらに、認証条件や制度の運営に関する検証や、諸外国で頻発する口蹄疫に対する防疫対策の徹底など、活動の基本となる事項についても留意しながら事業を行った。

1. 活動の量的拡大・面的普及を図る事業

(1) 認証制度の適切な運営と認証審査・研修会の実施

認証募集については、指定団体に案内するとともに、業界誌等を通じて広く酪農家・関係者に告知した（募集期間は5月16日～12月10日）。認証申請のあった牧場を対象に地域推進委員会・指定団体を中心に現地審査を実施し、1月12日の認証審査委員会で牧場とファシリテーターの認証申請書について審査を行った。

認証研修会についてはプログラムを厳選し、①酪農教育ファーム活動の目的・概要、②酪農教育ファームファシリテーターの役割、③交流活動における安全・衛生対策、という内容で下記のとおり実施した。これにより、17牧場と61名のファシリテーターが認証された。

平成24年度酪農教育ファーム認証審査委員 名簿（順不同・敬称略）

	氏名	所属・役職等
1	西田 敦子	全国退職女性校長会 会長
2	伊藤 強	東北生乳販売農業協同組合連合会 代表理事専務
3	松下 克己	松下牧場（静岡県） 代表
4	溝本 朋子	千葉県農業共済組合連合会 南部家畜診療所 次長
5	内橋 政敏	社団法人中央酪農会議 事務局長

平成24年度認証研修会 開催状況

開催日	場所	受講人数
1/22～23	札幌	9名
1/31～2/1	東京	38名
2/13～14	大阪	14名
合計		61名

★平成 24 年度新規認証牧場

No.	認証番号	牧場名	都道府
1	0113001	村山牧場	北海道
2	0113002	新妻牧場	北海道
3	0113003	株式会社美瑛ファーム 美瑛放牧酪農場	北海道
4	0113004	とくさ牧場	北海道
5	0113005	株式会社ファームズ千代田	北海道
6	0413001	宮城県加美農業高等学校	宮城県
7	0513001	北杜ポランファーム	秋田県
8	0613001	深山ミルクえん	山形県
9	0613002	山形県立農業大学校	山形県
10	0713001	ミネロファーム	福島県
11	1213001	湯浅牧場	千葉県
12	1213002	島山牧場	千葉県
13	1213003	行木牧場	千葉県
14	1213004	小澤牧場	千葉県
15	1613001	佐藤牧場	静岡県
16	3613001	片岡牧場	徳島県
17	4513001	宮崎県立高鍋農業高等学校舞鶴牧場	宮崎県

(2) 酪農教育ファーム認証に係る広報活動等の実施

酪農関係者や教育関係者等に向けて、酪農教育ファームの認証制度や教育的な効果等について、業界誌（紙）等で情報発信をおこなった。また、認証制度に関する説明会等も地域単位で開催されている。

平成 24 年度 酪農教育ファーム記事広告掲載【参考 2 を参照】

媒体名	掲載日等
日本教育新聞	10/15, 22、11/5, 12, 26、12/3, 10, 17
Wutan（教育同人社発行）	3月号
全酪新報	9/20、10/10
DAIRY MAN	9月号、10月号
Dairy Japan	10月号、11月号
月間 JA	3月号
フレマルシェ（日本農業新聞発行）	夏号（8月）

(3) 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための研究会や情報交換会の開催

23 年度に引き続き、酪農教育ファーム地域推進委員会が主体となって、認証牧場・ファミリーレーターと教育関係者との「出会いの場」としての、酪農体験等を交えた共同の研修会や研究会、情報交換会を開催した。

平成 24 年度 酪農家と教育関係者の「出会いの場」開催状況

地域	実施日	実施場所	対象	タイトル(内容)	参加人数
北海道	8/16	リリビレッチ竹田牧場(千歳市)	大学生(栄養教諭希望)	酪農体験研修会『牧場で学ぼう!』	25名
	8/17	リリビレッチ竹田牧場(千歳市)	大学生(栄養教諭希望)	酪農体験研修会『牧場で学ぼう!』	27名
	8/25	帯広農業高校 リパティヒル広瀬牧場(帯広市)	教員(幼稚園)	十勝私立幼稚園連合会「新人研修大会」	56名
関東	7/30	静岡県富士宮市	東京都内小学校教諭	先生のための酪農体験学習会	36名
	8/23	静岡県富士宮市	静岡県内小学校教諭	学校教職員の牧場・乳業ふれあい体験等研修会	37名
北陸	9/22	(有)フジタファーム(新潟県)	新潟県上越地区学校栄養教諭等	酪農体験を通じた食育研修会	25名
	9/29	(有)フジタファーム 新潟県農協乳業(株)	新潟県中越地区学校栄養教諭等	酪農体験を通じた食育研修会	20名
	10/20	(有)ヤスタヨーグルト 新潟大学農学部FC	新潟県下越地区学校栄養教諭等	酪農体験を通じた食育研修会	17名
	11/23	(株)塚田牛乳 新潟大学農学部FC	新潟大学教育学部生	酪農体験教室	38名
東海	7/28	ハヶ岳牧場(長野県)	学校栄養教諭・職員 関係職員とその家族(小学校以上)	ハヶ岳牧場酪農ふれあい体験会	56名
	8/17	愛知牧場	学校栄養教諭・栄養職員	わくわくモーモースクール酪農体験研修	45名
	11/17	NDファーム(愛知県) 中央製乳	学校栄養教諭・栄養職員	わくわくモーモースクール酪農体験研修	23名
	11/30	大内山酪農協ふれあい牧場 (三重県)	学校栄養教諭・栄養職員 PTA他	わくわくモーモースクール酪農体験研修	34名
	8/22	恵那市文化センター (岐阜県)	学校栄養教諭・栄養職員	食べる牛乳セミナー	26名
九州	10/13	大分県	教育関係者及びその家族	酪農体験学習会及び現地会議	17名
	10/24	宮崎県	教育関係者及び学生	酪農体験学習会及び現地会議	15名

また、近畿地域において、核となるような教育関係者・学校の掘り起こしを目的として、大阪府堺立浜寺小学校1年生及び5年生において、以下のとおり教科横断的なカリキュラム開発を行った。

●酪農教育における探究型モデル授業の開発と評価

- ・研究者：早稲田大学教職大学院 田中博之教授
- ・授業実践校：
 - 大阪府堺市立浜寺小学校1年3学級(約70名)及び5年3学級(約100名)
- ・対象牧場：5年生は谷牧場(京都府)、1年生は西山牧場(兵庫県)
 - ※近畿地域酪農教育ファーム推進委員会(近畿生乳販連)が牧場と学校との連絡・調整を実施。
- ・開発単元：
 - 国語科、算数科、道徳、図工、家庭科、総合的な学習の時間(生活科)などを連携させた教科横断的な単元 ※具体的なカリキュラムは次のとおり

2学期 生きるっていいな(全42時間)

目標:生き物とふれあったり、世話をしたりする活動を通して、生き物への関心と愛着を深め、それらの成長や命の尊さ・温かさに気付くとともに、その感動や気付きを表現することができる。

国語「みいつけた」

げんきにそだてプロジェクト(全22時間)

算数「20までのかず」

アサガオ、たくさん咲いたよ、たねがたくさんできたよ②

- 夏休みにたくさんのアサガオが咲いたよ
- 夏休みにたくさん種ができたよ。いくつかあるかな。
 - ・アサガオの種の数を数えてみよう
 - ・アサガオの茎で何か作りたいな

道徳「家族が大好き」4-②

かぞくニコニコだいさくせん(全8時間)

夏休みにこんなお手伝いをしたよ①

- ・おふろそうじをし
- ・洗濯物をたたんだよ
- ・茶碗を洗ったよ
- ・トイレ掃除をしたよ

かぞくニコニコだいさくせん

<関心・意欲・態度>
 ・家庭での生活や家族のことについて、興味・関心を持って取り組み、自分のできる役割を行い、規則正しく健康に気をつけて生活する。
 <思考・表現>
 ・家族のことや自分のできることを考え、家庭や家族のことについて調べたことや体験したことをまとめて表現したりできる。
 <気付き>
 ・家庭生活は、家族の温かさや家族の仕事によってささえられていることに気付いている。

いきものとなかよし、さわってみよう③

- いきものをさわってみよう
 - ・うさぎのシロちゃんをだっこしたいな
 - ・シロちゃんをなでると、ふさふさしているよ
 - ・シロちゃんのうんちは丸い形だよ
 - ・コロコロしているよ
- いきものを育ててみよう
 - ・だんごむしの本をよんで、だんごむしをかいたいな
 - ・ダンゴムシの育て方を知りたいな
 - ・5年生からメダカの育て方を教えてもらいたよ
 - ・ぼくたちもめだかを育てたいな

おうちの仕事、他にもないかな?①

- ・ごはんをつくってくれている
- ・習い事につれて行ってくれる
- ・犬の散歩や世話をしてくれる

わたしもできるようにになりたいな②

- なにをやるか話合ってやってみよう!
- ・まどふき
- ・じょうずなぞうきんしぼり
- ・洗濯物たたみ
- ・食器洗い

国語「しらせたいな、みせたいな」

あたたかいね、いきているんだね③

- ウサギのシロちゃんは、屋間はあまり動かないよ
- ダンゴムシの赤ちゃんが生まれたよ
 - ・ダンゴムシの赤ちゃんは、小さいけど、お母さんダンゴムシと同じ形をしているよ
- メダカの赤ちゃんが大きくなってきたよ

家族の一員として、できることは何かな?②

- 家でできることを考えよう
- ・しごとチャレンジカードに書いて、やったことをみんなに伝えよう

牧場から手紙がきたよ①

- 牧場ってどんなところだろう
- ・牧場には、何がいるのかな?
- ・牧場ってどんなところ?
- ・牛ってどんなおおきなかな?

家で挑戦したことを紹介しよう②

- こんなことをできるようになったよ
- いきいき発表会で挑戦したことを紹介しよう
 - ・床拭きチーム
 - ・窓磨きチーム
 - ・お風呂掃除チーム
 - ・食器洗いチーム
 - ・小さい子の世話上手チーム

げんきにそだてプロジェクト

<関心・意欲・態度>
 ・生き物に関心をもち、進んで世話をしたり遊んだりしている。
 ・生き物とかかわり、ウサギをだっこして思ったことや、ダンゴムシと遊んでわかったこと、牧場の牛についてわかったことなどを友達や家族に知らせようとしている。
 <思考・表現>
 ・生き物の気持ちを考えながら、優しくなでたりだっこしたりすることができる。
 ・ぬいぐるみと生き物の違いを、ふりかえりカードなどを活用して考えることができる。
 <気付き>
 ・ウサギやダンゴムシの世話のしかたについて気付いている。
 ・生き物の動きを観察したり、だっこしたり一緒に遊んだりすることにより、ウサギやダンゴムシも自分と同じように生きていることに気付いている。

道徳「ひとりぼっちのライオン」1-④

ぼくじょうたいけんについてみよう⑧(兵庫県西山牧場にて体験2回)

- ①牧場に行くと、牛さんに触ってみよう
 - ・牛って大きいね
 - ・草を食べるんだね
 - ・大きな声で鳴くね
 - ・おおきなうんちだね
 - ・牛乳をしぼってみたいかな
- ②牛さんのことについて、いろいろ知りたいな
 - ・たくさんのうんちはどうなるの?
 - ・えさはどれぐらい食べる?
 - ・しぼってから、すぐに飲めないの?
 - ・ぼくたちとう牛さんの成長の仕方って同じかな?
 - ・乳しぼりの仕方に上手・下手があるのかな?

あきまつりをしよう(全10時間)

どんなあきが見つかるかな①

- 学校の秋をさがそう
 - ・耳を澄ますと
 - ・葉っぱが赤くなってきたよ
 - 草と比べてみよう
 - ・浜寺公園はどう変わっているかな

秋見つけに出発だ④

- 浜寺公園を探検しよう
 - ・くつつき虫の葉っぱがおもしろいね
 - ・いろいろな虫がいるよ
 - 葉っぱや木の実を拾いに行こう

図工「牛さんの乳しぼり」

みつけたこと、思ったことを紹介しよう⑥

- 体験したことをみんなに知らせよう
- 知らせたこいことを3年生に伝えよう
 - ・ダンゴムシと牛さんの食べるものは違うよ
 - ・乳しぼりが難しいんだよ
 - ・ぼくたちや、牛さん、ダンゴムシでは、大きくなるスピードが違うよ
 - ・牛乳って、血からできているんだよ
 - ・牛の体って、とっても大きいよ。食べる量も多いんだよ

こんな秋をみつけたよ③

- 秋まつりのじゅんびをしよう
 - ・お土産コーナー(どんぐりのネックレス)
 - ・クイズコーナー(どの虫の鳴き声かな)
 - ・ゲームコーナー(松ぼっくりの的あて)

道徳(食育)「きゅうしょくのなかみはどこから?」

あきまつり②

- 秋まつりで自分が作ったものや、見つけたものを発表しよう
- 秋祭り後、よかったところや、こうすればもっとよくなることをまとめよう

道徳(食育)「うしさん、ありがとう」

あきまつりをしよう

<関心・意欲・態度>
 ・自分から進んで自然の物を使った遊びを行ったり、遊び道具や生活に役立つ物を作ったりする。
 <思考・表現>
 ・自然物を使って、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりすることができる。
 <気付き>
 ・自然の中での遊びを通して季節の変化を感じるとともに、それにもない自分たちの暮らしも変化してきていることに気付いている。

国語「ずうと、ずうと、大すぎだよ」

たのしみだねふゆやすみ①

もうすぐお正月①

平成24年度 第5学年 総合的な学習の時間(いきいきタイム)単元の流れ

5年生大テーマ「食と命プロジェクト」

目標 体験活動を通して食や命の大切さについて考え行動し広め、責任感や思いやりの心を育てる

教科との関連	総合的な学習の時間	評価(育てたい力・心)																																
1学期 酪農について調べてまとめよう(全20時間)																																		
総合(4年) 「2分の1成人式」	<table border="1"> <tr> <td>テーマ ゴール</td> <td> <p>生きるために必要なことは?</p> <p>なぜ「いただきます」というのか。 (サークルタイム)</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学習すること ・運動すること ・寝ること ・一番は食べること </td> </tr> <tr> <td>情報 リサーチ</td> <td> <p>栄養士の先生に給食の秘密を聞こう</p> <p>酪農・牧場について調べよう</p> <p>命の誕生について考えよう(道徳) ～子牛の誕生ビデオから～</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・カルシウムって成長に必要なんだ。 ・牛乳ってすごいな。飲む必要があるな。 ・酪農の意味が分かった。牧場ってこんなところなんだ。 ・牛の誕生も人と同じようなところがある。 ・牧場に行くと牛に会ってみたい。 </td> </tr> <tr> <td>理科「メダカの誕生」</td> <td> <p>酪農体験・牛乳工場見学</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・牧場ってくさいな。酪農って楽しい。もう一度体験したい。 ・牛乳工場にはいろいろな工夫があるんだ。 </td> </tr> <tr> <td>国語「きいて、きいて、きいてみよう」</td> <td> <p>活動報告書を書こう</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・牧場についてこんなことが分かった。 ・もっとこんなことを調べたい。 </td> </tr> <tr> <td>国語「次への一歩」</td> <td> <p>活動報告書を読み合おう</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなことも知る必要があるな。 </td> </tr> </table>	テーマ ゴール	<p>生きるために必要なことは?</p> <p>なぜ「いただきます」というのか。 (サークルタイム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習すること ・運動すること ・寝ること ・一番は食べること 	情報 リサーチ	<p>栄養士の先生に給食の秘密を聞こう</p> <p>酪農・牧場について調べよう</p> <p>命の誕生について考えよう(道徳) ～子牛の誕生ビデオから～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カルシウムって成長に必要なんだ。 ・牛乳ってすごいな。飲む必要があるな。 ・酪農の意味が分かった。牧場ってこんなところなんだ。 ・牛の誕生も人と同じようなところがある。 ・牧場に行くと牛に会ってみたい。 	理科「メダカの誕生」	<p>酪農体験・牛乳工場見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牧場ってくさいな。酪農って楽しい。もう一度体験したい。 ・牛乳工場にはいろいろな工夫があるんだ。 	国語「きいて、きいて、きいてみよう」	<p>活動報告書を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牧場についてこんなことが分かった。 ・もっとこんなことを調べたい。 	国語「次への一歩」	<p>活動報告書を読み合おう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなことも知る必要があるな。 	<p>【問題解決力】 <課題設定力> ・酪農体験をすることで、酪農について調べて学習を通して、追究してみたい価値ある課題を決めることができる。 ・活動の中から、給食の大切さについて考えることができる。</p> <p><課題追究力> ・酪農などの自分たちの調べたいことに対して活動計画を立て、見学や本・インターネットなどを通して追究することができる。 ・活動の中から、給食の大切さを伝えるための方法や活動計画を決め追究することができる。</p>																	
テーマ ゴール	<p>生きるために必要なことは?</p> <p>なぜ「いただきます」というのか。 (サークルタイム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習すること ・運動すること ・寝ること ・一番は食べること 																																
情報 リサーチ	<p>栄養士の先生に給食の秘密を聞こう</p> <p>酪農・牧場について調べよう</p> <p>命の誕生について考えよう(道徳) ～子牛の誕生ビデオから～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カルシウムって成長に必要なんだ。 ・牛乳ってすごいな。飲む必要があるな。 ・酪農の意味が分かった。牧場ってこんなところなんだ。 ・牛の誕生も人と同じようなところがある。 ・牧場に行くと牛に会ってみたい。 																																
理科「メダカの誕生」	<p>酪農体験・牛乳工場見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牧場ってくさいな。酪農って楽しい。もう一度体験したい。 ・牛乳工場にはいろいろな工夫があるんだ。 																																
国語「きいて、きいて、きいてみよう」	<p>活動報告書を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牧場についてこんなことが分かった。 ・もっとこんなことを調べたい。 																																
国語「次への一歩」	<p>活動報告書を読み合おう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなことも知る必要があるな。 																																
2学期 食と命のつながりについて考え実行しよう(全35時間)																																		
家庭科「元気な毎日と食べ物」	<table border="1"> <tr> <td>テーマ ゴール</td> <td> <p>1学期の活動を振り返ろう</p> <p>酪農家の話を聞こう</p> <p>食生活についての現状を見つめよう</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとこんなことを調べたい。 ・こんなことを知る必要がある。 ・牧場の中にもいろいろな命の物語がある。 ・命のつながりがいろいろある。 ・食と命のつながりについて、自分に改善できることは何か考える。 </td> </tr> <tr> <td>情報 リサーチ</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>命について</td> <td>食生活について</td> </tr> <tr> <td>命をいただくってどんなこと(道徳)</td> <td>家庭での食生活を改善しよう</td> </tr> </table> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・牧場から命のつながり、大切さを感じる。 ・家庭でどうしたら簡単に乳製品がとれるか考える。 </td> </tr> <tr> <td>図工「牧場の絵を描こう」</td> <td> <p>酪農体験</p> <p>調理実習</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・エサやり、牧場の掃除体験 ・クッキー作りに挑戦 </td> </tr> <tr> <td>国語「インターネットを使って調べよう」</td> <td> <p>自分たちの食と命についての考えを改善しよう</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語「グラフや表を引用して書こう」 「わたしたちの図書館改造計画」</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>酪農家</td> <td>肉牛</td> <td>牛乳(工場)</td> <td>牛乳(栄養)</td> <td>牛乳生活改善</td> <td>料理を作っている人</td> <td>給食</td> </tr> </table> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>算数「単量あたりの大きさ」 「変わり方を調べよう」 「割合とグラフ」</td> <td> <p>提案書を作り提案会を開こう</p> <p>浜寺小学校のみんなに食と命について何を伝える必要があるか考えよう</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・5年の友だちに提案する。 ・あらためて食と命について考える。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>活動振り返ろう</p> </td> <td></td> </tr> </table>	テーマ ゴール	<p>1学期の活動を振り返ろう</p> <p>酪農家の話を聞こう</p> <p>食生活についての現状を見つめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとこんなことを調べたい。 ・こんなことを知る必要がある。 ・牧場の中にもいろいろな命の物語がある。 ・命のつながりがいろいろある。 ・食と命のつながりについて、自分に改善できることは何か考える。 	情報 リサーチ	<table border="1"> <tr> <td>命について</td> <td>食生活について</td> </tr> <tr> <td>命をいただくってどんなこと(道徳)</td> <td>家庭での食生活を改善しよう</td> </tr> </table>	命について	食生活について	命をいただくってどんなこと(道徳)	家庭での食生活を改善しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・牧場から命のつながり、大切さを感じる。 ・家庭でどうしたら簡単に乳製品がとれるか考える。 	図工「牧場の絵を描こう」	<p>酪農体験</p> <p>調理実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エサやり、牧場の掃除体験 ・クッキー作りに挑戦 	国語「インターネットを使って調べよう」	<p>自分たちの食と命についての考えを改善しよう</p>		国語「グラフや表を引用して書こう」 「わたしたちの図書館改造計画」	<table border="1"> <tr> <td>酪農家</td> <td>肉牛</td> <td>牛乳(工場)</td> <td>牛乳(栄養)</td> <td>牛乳生活改善</td> <td>料理を作っている人</td> <td>給食</td> </tr> </table>	酪農家	肉牛	牛乳(工場)	牛乳(栄養)	牛乳生活改善	料理を作っている人	給食		算数「単量あたりの大きさ」 「変わり方を調べよう」 「割合とグラフ」	<p>提案書を作り提案会を開こう</p> <p>浜寺小学校のみんなに食と命について何を伝える必要があるか考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年の友だちに提案する。 ・あらためて食と命について考える。 		<p>活動振り返ろう</p>		<p>【表現力】 <思考力> ・酪農について調べたことから必要な情報を選んで整理し、酪農から命について関係づけて考えることができる。 ・活動を整理し、給食の大切さについて自分なりに考えることができる。</p> <p><発表力(プレゼン)> ・自分たちが調べたことと考えたことを区別して、友だちに命の大切さを伝えるように、グラフや表を使った提案をすることができる。 ・給食の大切さについて、それぞれの学年にあった方法で伝えることができる。</p> <p><話す力(対話)> ・酪農について調べたこと、知りたいことを区別し、立場や意図をはっきりさせながら酪農家などにインタビューすることができる。</p> <p><聞く力(対話)> ・命の大切さについて、提案者の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。</p> <p><話し合う力(対話)> ・グループの話し合いで、命や食の大切さについて、互いの意見をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。</p>
テーマ ゴール	<p>1学期の活動を振り返ろう</p> <p>酪農家の話を聞こう</p> <p>食生活についての現状を見つめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとこんなことを調べたい。 ・こんなことを知る必要がある。 ・牧場の中にもいろいろな命の物語がある。 ・命のつながりがいろいろある。 ・食と命のつながりについて、自分に改善できることは何か考える。 																																
情報 リサーチ	<table border="1"> <tr> <td>命について</td> <td>食生活について</td> </tr> <tr> <td>命をいただくってどんなこと(道徳)</td> <td>家庭での食生活を改善しよう</td> </tr> </table>	命について	食生活について	命をいただくってどんなこと(道徳)	家庭での食生活を改善しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・牧場から命のつながり、大切さを感じる。 ・家庭でどうしたら簡単に乳製品がとれるか考える。 																												
命について	食生活について																																	
命をいただくってどんなこと(道徳)	家庭での食生活を改善しよう																																	
図工「牧場の絵を描こう」	<p>酪農体験</p> <p>調理実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エサやり、牧場の掃除体験 ・クッキー作りに挑戦 																																
国語「インターネットを使って調べよう」	<p>自分たちの食と命についての考えを改善しよう</p>																																	
国語「グラフや表を引用して書こう」 「わたしたちの図書館改造計画」	<table border="1"> <tr> <td>酪農家</td> <td>肉牛</td> <td>牛乳(工場)</td> <td>牛乳(栄養)</td> <td>牛乳生活改善</td> <td>料理を作っている人</td> <td>給食</td> </tr> </table>	酪農家	肉牛	牛乳(工場)	牛乳(栄養)	牛乳生活改善	料理を作っている人	給食																										
酪農家	肉牛	牛乳(工場)	牛乳(栄養)	牛乳生活改善	料理を作っている人	給食																												
算数「単量あたりの大きさ」 「変わり方を調べよう」 「割合とグラフ」	<p>提案書を作り提案会を開こう</p> <p>浜寺小学校のみんなに食と命について何を伝える必要があるか考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年の友だちに提案する。 ・あらためて食と命について考える。 																																
	<p>活動振り返ろう</p>																																	
3学期 食と命の大切さを広めよう(15時間)																																		
国語「すいせんします」	<table border="1"> <tr> <td>製作</td> <td>各学年にあった給食の大切さをまとめよう</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、1年生から4年生に何を伝えるか考える。 ・給食から食の大切さを伝える。 </td> </tr> <tr> <td>プレゼン</td> <td>浜寺小学校のみんなに広めよう</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から4年生に伝える。 </td> </tr> <tr> <td>成長エントリー</td> <td>1年間の学びを振り返ろう</td> <td></td> </tr> </table>	製作	各学年にあった給食の大切さをまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、1年生から4年生に何を伝えるか考える。 ・給食から食の大切さを伝える。 	プレゼン	浜寺小学校のみんなに広めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から4年生に伝える。 	成長エントリー	1年間の学びを振り返ろう		<p>【高め合う力】 <自己成長力> ・自分や友だちの成長に気付き、ともに成長したと認め合うことができる。</p> <p><協力する力> ・グループの中で、それぞれの役割を考えながら、協力し活動することができる。</p>																							
製作	各学年にあった給食の大切さをまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、1年生から4年生に何を伝えるか考える。 ・給食から食の大切さを伝える。 																																
プレゼン	浜寺小学校のみんなに広めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から4年生に伝える。 																																
成長エントリー	1年間の学びを振り返ろう																																	

(4) 酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する社会的認知の促進

これまでの調査研究結果等も踏まえ、教育専門誌（紙）を通じた情報提供を実施。また、教育関係者に向けて、酪農の教材価値について訴求するため、「酪農」を教材に授業作りを提案する研修会を2回開催した。

平成24年度教育関係者対象研修会 開催状況

開催日	開催場所	主な対象者	テーマ	受講人数
2/9	東京	栄養教諭 養護教諭	食育 (学級担任との連携や教材活用、 学校給食を活用した食指導など)	50名
2/23	東京	一般教員	学級経営、授業づくり (学級づくりのノウハウについて 酪農教育を素材として活用する)	34名
合 計				84名

また、酪農教育ファーム活動への参画を促す「きっかけづくり」の場として、酪農家による学校へのモデル出前授業（酪農家講師の派遣）を首都圏の小学校5校で実施。実施に際しては、早稲田大学大学院 田中博之教授の協力のもと基本カリキュラムを作成し、それをもとに担当教諭と酪農家、コーディネーター（早稲田大学大学院・日本教育新聞）による事前打合せ（学習会）を必ず実施した上で授業を行った。

平成24年度モデル出前授業 実施状況

実施日	実施校・学年	教科	目的	担当酪農家 ※敬称略
1/18	東京都杉並区立 杉並第四小学校3年生	特になし	酪農家の仕事	野島牧場（東京都） 野島為義
1/22	東京都大田区立 馬込小学校2年生	生活科	給食の牛乳が できるまで	加茂牧場（千葉県） 加茂太郎
1/31	東京都葛飾区立 綾南小学校1年生	生活科	給食の牛乳が できるまで	加茂牧場（千葉県） 加茂太郎
2/4	東京都町田市立 鶴間小学校5年生	社会科	酪農家の仕事	KTT コミュニケーションファーム （東京都） 北島隆
2/20	神奈川県茅ヶ崎市立 緑が浜小学校5年生	社会科	食料生産の 発展学習	石田牧場（神奈川県） 石田陽一

さらに、関東生乳販売農業協同組合連合会と共催で、第7回食育推進全国大会（6月16～17日、パシフィコ横浜）タイアップイベントに出展し、酪農教育ファーム活動の認知拡大を図るとともに、酪農理解醸成活動を行った。2日間のブースへの来場者数は約8,000名。イベント会場では、乳牛（親牛1頭、子牛2頭）とのふれあいコーナー、酪農教育ファームの展

示コーナー、MILK JAPAN コーナー、牛乳販売コーナーのそれぞれのブースを展開し、来場者から好評を得た。協力団体は、神奈川県酪農業協同組合連合会、タカナシ乳業株式会社。

また、第3回ファーマーズ&キッズフェスタ 2012（11月10～11日、日比谷公園）にブース出展し、MILK JAPAN の展示と併せて、バター作り体験教室などを6回実施。のべ100名が体験した。

2. 活動の質的な向上を図る事業

（1）ファシリテーターに対するスキルアップ研修会の開催

スキルアップ研修会を全国5か所で下記のとおり実施した。ファシリテータースキルを磨くためのテーマを3パターン設定し、教育関係者の基調講演と併せて、参加者相互の学びあい（グループディスカッション）により、研修を行った。

また、口蹄疫に対する防疫対策を中心に、交流活動における安全・衛生対策についても再確認した。

平成24年度スキルアップ研修会 開催状況

開催日	場所	テーマ	受講人数
9/25	福岡	バター作り体験を極める！	12名
10/5	大阪	子どもの気持ちに落ちる、酪農家のコミュニケーション	13名
11/6	東京	バター作り体験を極める！	37名
11/21	仙台	子どもたちの緊張を解き、心をつかむ「アイスブレイキング」	12名
12/4	札幌	子どもたちの緊張を解き、心をつかむ「アイスブレイキング」	14名
合計			97名

なお、119名の認証期限ファシリテーターのうち、研修受講により77名のファシリテーターの認証期限が3年延長された。研修未受講者42名は認証期限が満了となるが、「特にやむを得ない理由」による未受講者の取り扱いについては、別途協議を行う。【資料No.2】

（2）活動の効果検証の実施

酪農教育ファーム活動の効果を検証するため、24年度は以下の調査研究を実施した。

①酪農体験活動が子どもに与える教育的効果～酪農体験活動を行った子どもの追跡調査を通じて～

・研究者：大妻女子大学家政学部児童学科 石井雅幸准教授

広島大学大学院教育学研究科 木下博義准教授

・調査対象：10年ほど前に酪農体験経験者及び酪農体験未経験者《比較調査》

・調査結果：

過去に酪農体験を経験すると、一度も体験をしたことがない場合と比較して、明らかに

「牧場」「乳牛」「牛乳」等についてポジティブなイメージを持っている。また、酪農体験をきっかけに、「食」「いのち」について考えるのはもちろんのこと、「職業観・勤労観を考えるようになる」という効果もみられる。

②酪農教育ファーム認証牧場における後継者の経営意識と行動に関する調査研究

- ・研究者：千葉大学大学院園芸学研究科 大江靖雄教授
- ・調査対象：酪農教育ファーム認証牧場及び未認証牧場の後継者《比較調査》
- ・調査結果：

消費者交流を実施していない後継者は、「伝統的アイデンティティ」（≒経営多角化志向なし）を有している。認証早期取得・地域交流牧場全国連絡会早期加入牧場は、「拡大アイデンティティ」（≒多角化志向）を有する酪農家が多い。また、料金賦課を実施する認証牧場の後継者は、総じて拡大アイデンティティを有している。拡大アイデンティティを有している後継者は海外研修経験者に多く、外部とのネットワーク形成に積極的である。

③牧場での体験が、親子の食や食生活に及ぼす教育的効果の検証

- ・研究者：学習院女子大学国際文化交流部 品川明教授
- ・調査対象：東京都内在住の親子（子どもは小学生以下）
- ・対象牧場：磯沼ミルクファーム（東京都八王子市）
- ・調査結果：

牧場体験（1泊2日のキャンプ）で「家畜」の意味を理解するようになると、子どもも親も食べ物に対して感謝の気持ちが上がり、「いのち」と「食」を結びつけて考えるようになる。

（3）幼児向け教材及び中学校向け教材の開発の検討

近年、認証牧場での体験機会が増加している幼児と中学生を対象とした新たな教材について、24年度は開発にあたっての情報収集を行ったが、開発には至らなかった。25年度中の完成を目指し、内容などについて引き続き検討していく。

なお、24年度はこれまで開発してきた教材・活動ツールについて一部増刷を行った。増刷した教材・ツールは以下のとおり。

- 酪農教育ファーム活動紹介パンフレット「みんなが笑顔になるヒミツ」
- パンフレット「手洗い大作戦～楽しい体験のために・牧場からのお願い～」
 - * 食といのちの学び支援全国協議会で作成
- 小学校高学年向け小冊子「なるほど！ミルク」
- 小冊子「牧場に、ようこそ。」
- チラシ「ミルクからできるさまざまな製品」
- DVD「牛乳のふるさと～宮崎県・本部農場の一日」 * 食といのちの学び支援全国協議会で作成
- 生活科学習キット「牧場に行ける学校編」「牧場に行けない学校編」
- 認証牧場用タペストリー（4種セット）

3. 活動を円滑に推進する事業

(1) 推進委員会等の会議開催

酪農教育ファーム活動を円滑に推進するため、全国の推進委員会及び全国と地域の合同会議を下記のとおり開催した。

平成24年度酪農教育ファーム関連会議開催状況【全国】

日時	場所	会議名
5/18	東京	酪農教育ファーム全国・地域推進委員会合同会議
10/29	東京	平成24年度第1回酪農教育ファーム推進委員会
2/21	東京	指定団体担当者（事務局）会議
3/27	東京	平成24年度第2回酪農教育ファーム推進委員会

平成24年度酪農教育ファーム推進委員 名簿（順不同・敬称略）

氏名	所属・役職等	区分	備考
1 羽豆 成二	帝京短期大学生生活科学科 前教授	教育関係者	委員長
2 國分 重隆	日本酪農教育ファーム研究会 会長 【新宿区立東戸山小学校 校長】	教育関係者	
3 亀山 桂子	三鷹市立第二小学校 校長	教育関係者	
4 田山 修三	札幌市観光文化局 文化部文化財課 (北海道教育大学非常勤講師)	教育関係者	
5 角屋 重樹	文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 部長	研究者	
6 大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授	研究者	
7 青山 浩子	農業ジャーナリスト	ジャーナリスト	
8 木島 俊行	株式会社明治 執行役員 酪農部長	メーカー	
9 田村 学	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官	行政	
10 藤田 毅	地域交流牧場全国連絡会 会長 【フジタファーム(新潟県) 代表】	酪農家	
11 村上 隆彦	むらかみ牧場(北海道) 代表	酪農家	
12 吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路(埼玉県) 代表	酪農家	
13 近藤 好弘	ホクレン農業協同組合連合会 酪農部 部長	生産者団体	
14 赤尾 學	東海酪農協同組合連合会 代表理事専務	生産者団体	
15 山口 昌春	九州生乳販売農業協同組合連合会 代表理事常務	生産者団体	

(2) 地域推進委員会の開催及び活動の充実

地域単位の活動を円滑に推進するため、ブロック及び県単位で推進委員会を開催した。委員会では、「出会いの場」の企画・開催【1-(3)参照】や、出前授業（わくわくモーモースクールなど関東地域、東海地域、九州地域等で主に実施）、牧場体験の企画・開催等について協議し、実行した。さらに、認証牧場の実態を把握し、個別課題への必要な支援を行うため、現地調査・指導を実施した。

特色のある取り組みとして、関東地域の未認証酪農家への働きかけのための会議の開催、近畿地域の出前授業研究に基づく模擬搾乳機の作成、中国地域の酪農家手作り乳製品製造研修会の開催、四国地域の認証牧場 MAP 作成・配布等がある。

平成 24 年度酪農教育ファーム地域推進委員会 開催状況

地域	開催日	地域	日時	地域	日時	地域	日時				
北海道	北海道①	6/6	関東	関東地域①	9/15	北陸	北陸地域	6/22			
	北海道②	1/30		関東地域②	3/16		東海	東海地域①	7/2		
東北	東北地域	6/6		埼玉県①	4/24	東海地域②		12/17	近畿	近畿地域①	5/30
	青森県	1/25		埼玉県②	7/12	愛知県①		8/2		近畿地域②	9/26
	福島①	8/27		埼玉県③	3月	愛知県②		1/24		近畿地域③	2/27
	福島②	3月		千葉県	1/12	岐阜県①		7/23	中国	中国地域①	8/5
		神奈川県①		8/27	岐阜県②	1/23		中国地域②		11/20	
		神奈川県②		2/12	三重県①	7/24		四国	四国地域	8/2	
		静岡県①		5/22	三重県②	1/17			高知県①	6/17	
		静岡県②		3/15	長野県①	8/23			高知県②	6/21	
					長野県②	1/21		九州	九州地域	6/23	

(3) 認証制度の運用に関する検討の実施

認証規程の見直しについて、実際に認証制度の運用に大きく携わっている指定団体の実務責任者会議、担当者会議等で協議・検討を行った。

(4) 教育関係者とファシリテーター等のネットワーク活動の充実

全国各地で酪農教育ファーム活動を実践しているファシリテーターと教育関係者等約50名が参加し、強固なネットワークを構築するため、酪農教育ファーム全国実践研究委員会（8月3日、東京）を開催し、「酪農体験活動時の効果的な声かけ」や「出前授業のあり方」等について検討・協議した。

また、全国的な教育関係者のネットワーク組織である日本酪農教育ファーム研究会の夏の研究集会（8月4日、東京、約40名）に協賛を行った。

(5) ホームページなどの情報環境の整備や「感動通信」等による各種情報の提供

酪農教育ファームのホームページについて、教育・酪農関係者双方が必要かつ重要な情報を取得できるよう、事業の告知や概要報告を行うなど充実を図った。

また、教育関係者やファシリテーター等に対して、教育効果や教育的な視点、実際の活動の優れた事例、教育現場の動向などの酪農教育ファーム活動に係る幅広い最新情報を、「感動通信」（年4回、各5,000部発行）を通じて提供した。

（６）関係団体との連携の強化

24年度に引き続き、乳牛や酪農家とのふれあいにより東日本大震災で被災した児童などの心の傷を癒し、食といのちの大切さについて実感してもらうことを目的に、畜産経営支援協議会（事務局：中央畜産会）、東北生乳販売農業協同組合連合会及び地域交流牧場全国連絡会の協力のもと、被災地の小学校２校で乳牛とのふれあい体験などの出前授業「もーもースクール」を実施し、全国の酪農家など約40名がスタッフとして参加した。

①9/4、岩手県陸前高田市立長部小学校（長部小学校、気仙小学校の全校児童118名）

②9/5、宮城県石巻市立橋浦小学校（橋浦小学校、吉浜小学校、相川小学校の全校児童146名）

※9/3に交牧連東北ブロックが岩手県大船渡市立綾里小学校（3年生児童20名）で出前授業実施。

また、日本酪農乳業協会（Jミルク）主催の栄養士・栄養教諭対象の牛乳食育研修会（全国5箇所で開催）に（公社）全国学校栄養士協議会とともに協力した。

（７）家伝法改正に伴う酪農教育ファーム活動の実態の把握と対応

認証牧場・ファシリテーターに対する活動実態調査によって、家畜伝染病予防法の改正に伴う体験交流活動への影響が確認された。22年8月に策定した「交流活動における感染症防疫マニュアル」やリーフレット等を活用し、改正された飼養衛生管理基準に沿って交流活動が安心安全に行えるように、ファシリテーターや関係者に対して、防疫対策の周知徹底を図った。

また、認証牧場及びオープンファームへの来場者に対し、防疫に対する注意喚起を促す衛生管理区域を明示する看板を作成して、希望者に実費負担で配付した。

Ⅲ 事業の成果と課題

1. 成果

（１）活動の効果検証による新たな知見

24年度は3つの研究機関と連携し、認証牧場・教育関係者等の協力のもと、酪農教育ファーム活動の効果検証を行った。

第1に、10年程前に酪農体験を経験したことがある方に対する追跡調査では、酪農体験の経験者は「酪農」「牛乳」に対して明らかにポジティブな意識を持っていることが確認され、酪農体験の効果が持続的であることが示唆された。

第2に、認証牧場の後継者を対象とした調査では、「拡大アイデンティティ」を有するためには、就農前の研修内容と就農後の酪農家ネットワークを活用した社会学習の重要性が指摘され、今後の酪農教育ファームの方向性を議論する際の大きな検討材料を得ることができた。

第3に、親子を対象とした「食」に関する意識調査については、酪農体験で「家畜」の意味を理解することが「食といのちの結びつき」につながることで改めて確認された。

（２）新たに認証を希望する牧場とファシリテーターの増加

「酪農教育ファーム」「認証制度」等が酪農生産者側に定着するとともに、その「効果」も徐々に明らかになっていることから、新たに認証を希望する牧場・ファシリテーターは着実に増えている。地域推進委員会が主体となって認証制度に関する説明会等をきめ細やかに開催することによって、活動への興味・関心が高まっていると推察される。

特に、口蹄疫や東日本大震災の被害にあった牧場が24年度に新たに認証されたことは大きな成果である。また、近年、農業高校などの教育機関の認証申請が増加している。このことは、酪農後継者育成の観点からも有意義であるといえる。

（３）教育関係者ネットワークの面的な広がり

核となるような教育関係者・学校の掘り起こしを目的として近畿地域で実施したモデル事業では、食育研究指定校でもある堺市立浜寺小学校の協力のもと、1年生と5年生において教科横断的な酪農カリキュラムを開発することができ、多くの教育関係者にその効果を発表する機会を得た。

また、全国段階においては、次年度につながる教育関係者対象の研修会とモデル出前授業（酪農家講師派遣）を連動させた事業を首都圏で実施した。特に出前授業については多数の応募があり、学校現場のニーズの高さが明確になった。

さらに、地域推進委員会や関係団体で実施している体験学習会・研修会等の参加者が、日本酪農教育ファーム研究会に参画する事例などもみられている。

（４）研修会のプログラム充実

ファシリテーターの資質向上を図るスキルアップ研修会では、3パターンのテーマを設定し、多様な研修プログラムで受講者に好評を得た。

認証研修会については、参加者同士の経験や情報を交換する場を設定するとともに時間を有効に使えるようプログラムを厳選し、「また参加したい」「もっと受講したい」という感想を多くの参加者から得ることができた。ファシリテーターのスキルアップ研修会等の受講意欲の向上につながることを期待される。

（５）認証制度の改正

20年度に認証制度を改正して以降、その運用についてこれまで幾度も議論を行ってきたが、24年度は指定団体の関係者等を中心に協議を行い、地域活動の深化と研修機会の拡大を目的としたファシリテーター認証規程の改正と、オープンファーム登録制度と認証制度との区分を明確にするための改正につなげることができた。

（6）東日本大震災への支援

23年度の活動によって、「牛」「酪農」には確かな「癒し」の効果があることが確認されたため、畜産経営支援協議会、地域交流牧場全国連絡会、東北生乳販売農業協同組合連合会等と連携し、継続して東日本大震災の被災地での支援活動を行った。大きな被害を受けた小学校で全国の酪農家と乳牛等による出前授業を実施し、震災で傷ついた児童や被災者の心を癒す一助とすることができた。

2. 課題

（1）認証牧場の量的拡大と質的向上

24年度は後継者不在による廃業や労働力不足によるファシリテーター不在、防疫への不安等の理由により認証を辞退する牧場が25牧場あった。また、認証牧場の申請については、地域間によって差がある状況となっている。

認証牧場が近隣に少ないという理由から、地域によっては酪農体験を希望する学校や団体に対応できないところもある。認証牧場の実態を把握するとともに、交流活動を行っている牧場には、認証について積極的な情報を発信することが必要である。

また、既存の認証牧場については、研修会の積極的な参加や他の交流活動の内容等についての意見・情報交換を通じてお互いに学び合い、質的な向上を目指すことが重要である。そのためにも、研修機会の増加を図る必要がある。

（2）安全・衛生対策と認証牧場の負担の減少

感染症予防の観点から、口蹄疫終息後も体験受け入れを中止または再開できていない認証牧場が複数みられる。また、消毒薬・ブーツカバー等の消耗品の経費が嵩み、牧場の負担が増えているという報告が多くある。

認証牧場・ファシリテーターの精神的・経済的な負担を軽減するために、意見・情報交換、研修等を行う場の提供、防疫資材の共同購入の検討、行政からの支援などが必要と考えられる。

（3）多様な視点からの活動の効果検証とその普及

教育現場で昨今課題になっている「いじめ」など、子どもたちの「心」の問題に酪農教育ファーム活動がどう貢献できるのか、また、大きな教育効果をうむためのより良い体験を行うにはどうしたら良いのか等について、引き続き検証していく必要がある。

併せて、さまざまな角度から検証された酪農教育ファーム活動の効果についてメディア等を通じて紹介するなど、全国的に普及させて教育関係者のネットワークを構築し、活動を広げていく必要がある。

以上